



まっがさき  
松ヶ崎小(京都市左京区)

野川から引く水路も流れる。

松ヶ崎小学校 1873(明治6)年開校。1908年に近隣村落との組合立「格知尋常小学校」が開校されたが、16年には廃校となり、再び元の地に戻った。児童数302人。京都市左京区松ヶ崎堀町40。

っている問題を知った。地域の味を守ろうと、6年になっても学習を継続。住民に協力してもらい、菜の花の栽培から漬物にするまでを体験中で、このほど、摘み取り

環境教育に力を入れたのは2011年度から2年間、松ヶ崎学区が地域ぐるみで環境活動に励む京都市の「エコ学区」に認定されたのがきっかけだ。学区内には宝ヶ池があり、隣接する国立京都国際会館で地球温暖化防止を目指す「京都議定書」が採択されたことも後押しした。

授業では身近な自然の中で体験を重視。まず1、2年で基礎を学び、3年は山、4年は水、5年は食、6年はエネルギー

実情を知ってもらうため情報発信にも取り組んでおり、広報を担当する川本青汰君(11)と今谷香織さん(11)は「地域の伝統を残していけるように、少しでも多くの人に広めていきたい」と口をそろえる。

## 環境教育



校内で栽培している菜の花を観察する児童たち

(京都市左京区・松ヶ崎小)



情報発信するため、菜の花漬けについて学んだ成果をまとめる児童

# 特産の菜の花漬けを体験

校舎のすぐ裏手には京火で知られる「妙」法」と各テーマについて理一々に特産の菜の花漬けの都の伝統行事「五山送り」の山が広がり、近々の高解を深める。研究主任のを調べた際、作り手が減

もらうだけでなく、地域への愛着と誇りも先人から受け継いでいってほしい」と願う。



山岸芳子教諭は「自分たちで課題を見つけて解決する探究的な学習にした」と狙いを話す。新6年は昨年、食をテーマに

山岸教諭は「環境に対する豊かな感性を持つてもらって、地域への愛着と誇りも先人から受け継いでいってほしい」と願う。

(堀内陽平)